

る。そしてここに注目すべきは一八九七年(明治三十年)にレントゲンのことを齒科界に紹介したこの湖柳生というペンネームかまたは本名か不明であるが、この湖柳生とは一体いかなる経歴の人であろうか」と結んでいる。

このように野口英世(湖柳生)がわが国において最初に齒科におけるレントゲンを紹介したことはあまり知られていない。

(日本大学松戸歯学部)

野口英世箕面銅像搬入経路と除幕者

石 原 理 年

昭和三十年十一月二十七日、大阪府箕面公園に野口英世銅像が建立されたが、本像の国鉄福知山線川西池田駅より、建立地までの搬送路と方法、除幕者については明らかでない。

今般、搬入者である、箕面市桜五ノ一一(当時箕面町議)阪本利一氏より搬送について、また、除幕式に小学生代表を引率して出席した当時の小学校教諭より除幕者についての口述を得たので報告する。

阪本氏は「昭和三十年十一月初め、当時の上田藤太郎町会議長より、野口銅像を箕面公園に建立するについて、川西池田駅より建立地までの搬送を依頼された。野口博士の人となり、本像建立に至る多くの方々の労苦に感激し、一町民としてこれを受諾した。銅像建設会よりの条件は、十一月二十二日 正午厳守で、阪急箕面駅前に到着すること

あった。当時私は、但馬牛を飼っており、牛車は、京車を持っていたのでこれを使用することにした。川西池田駅までは、約六キロメートルあるので、牛の角に化粧飾り等をして、午前四時、同僚議員中川半次郎（故人）とともに私宅を出発した。午前八時、駅長室で受領手続きを完了、牛車への積込みを行ったが、道路は地道で、金輪をはめた木車輪のため、振動による破損を避ける細心の注意を払った。銅像の試験管を握った手が、梱包より出ていたので、万一を考え、中川はこれを抱いて牛車とともに歩いた。

経路は、駅より猪名川の呉服橋を渡り、池田市に入る。池田本通、渋谷村より旧呉服街道を西畑、東畑と進み、石澄川を渡り新福村に入ると箕面町である。この路傍で昼食を摂り、箕面川に架る箕橋を渡って、定刻、箕面駅前広場に待機中の広瀬建設会長、箕面町長に銅像到着の報告をした。歓迎花火が打上げられる等たいへんな騒ぎの中、牛車には標旗がたてられ、紅白の綱が繋がれる等した後、町内小中学生代表の手で、綱が曳かれ、牛車は歓迎者とともに滝道を建立地に登った。

琴の家横の滝道より建立地高台まで、二〇メートルの急

坂搬入は、丸太材による『コロ』を使用、台石製作者『石清』と植木職佐茂伊三郎により、吾々も手伝った」と述べた。

除幕式は十一月二十七日、本像前で挙行され、来賓として、建設会名誉会長大阪府知事代理、石塚三郎野口英世記念会理事長、福島東京歯科大学長らが出席した。式次第は、開式の辞、修祓、除幕（放鳥）、神事、献花、閉式の辞とあり、続いて、建立台地下の、滝安寺広場で、記念式典が催され、石塚三郎による記念講演と、児童代表による、沖広正人作詞「母子舞扇」披露等と祝宴が行われた。

森下薫は「箕面琴の家の野口博士と南川光枝」（『日本医事新報』二一三二号）、「箕面琴の家野口博士―南川光枝さんは語る」（『ある医学史の周辺』昭和四十七年、日本新薬）において、銅像搬入について、「運ばれた銅像は駅前（箕面）で荷車に積みかえられ、箕面小学校の児童代表の手で建設地まで運ばれた」と述べ、除幕者については、前記では南川光枝、後記では小学校児童としているが、搬入法については、阪本氏の口述および三十年十一月二十三日付、朝日新聞北摂版の当該記事と異なり、除幕者について

も、統一がない。

除幕式当日、参加小学生を引率出席した、当時の箕面小学校柏木博久、箕面北小学校浅田英毅教諭、箕面校長会代表久住武雄校長の口述によると、除幕式には、町内各小学校の児童会生徒代表三、四名ずつが出席し、中学校は搬入に加わり、除幕には参加していないという。除幕は、出席小学生らによったが、特定児童でなく、皆で綱を曳いた、と述べている。搬入について、現箕面市教委永井兵衛学務課長代理は「私は当時箕面北小六年生で、銅像搬入当日は修学旅行中であつたが、この旅行に参加の同級生五、六名がこの搬入に参加した」と述べている。

当該、朝日新聞撮影の報道写真を見ると、搬入時については、制服制帽の男子中学生に混じって、明らかに小学生と見える女子児童数名を見る。除幕式については、参列児童に年齢較差を見るので、いずれも、前記教諭の口述は正しいと考えられ、阪本氏の口述も、朝日新聞報道記事と合致する。

戸祭正男によると、森下薫が野口研究を始めたのは、昭和三十七年、第六回野口英世記念医学賞受賞以後としてい

るので、本像建立時、森下はこの諸行事に参加していないし、森下自身、前記二著で南川よりの聞取りとしている。したがって本像は、川西池田駅より阪本氏らによって、牛車で前記経路を阪急箕面駅に至り、同駅前より建立地までは、同牛車で牛とともに小中学生に曳かれた。除幕は、小学生代表により南川光枝らも加わって、綱を曳いたので、はと考えられるので、その解明を試みる。

本調査は、長門、谷洋治、古西義麿各氏に学恩を受けた。深謝します。

(京都大学生体振動学教室)